

2023年度 九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞
(伊藤早苗賞)の受賞者について

1. 賞の目的

本賞は、九州大学における優れた研究成果を挙げた若手女性研究者（教授を除く。）及び女子大学院生を表彰することにより、その研究意欲を高め、もって将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成とこれによる本学のダイバーシティ促進等に資することを目的とする。

2. 対象

(1)若手女性研究者部門

本学に在籍する女性研究者のうち、推薦の前年度末において、次の各号のいずれにも該当する者。

- イ 本学に1年以上在籍していること。
- ロ 年齢が40歳以下であること。
- ハ 過去3年以内に優れた研究業績を挙げていること。

(2)女子大学院生部門

本学の大学院に在籍する女子学生のうち、推薦の前年度末において、過去3年以内に優れた研究業績を挙げた者。

3. 選考経緯

4月 7日～6月20日	推薦公募
6月27日～7月11日	書面審査
7月14日～7月25日	書面審査結果を基に、各分野内で順位付け
8月 7日	第1回優秀女性研究者賞候補者選考委員会 ・ヒアリング対象者（優秀賞候補者）6名を選考
9月 5日	第2回優秀女性研究者賞候補者選考委員会 ・6名のヒアリング審査、最優秀賞候補者の選考
9月26日	総長により受賞者決定

4. 応募状況

若手女性研究者部門		女子大学院生部門	
人文・社会科学系分野	4名	人文・社会科学系分野	2名
理工学系分野	2名	理工学系分野	9名
生命科学系分野	3名	生命科学系分野	6名
合計	9名	合計	17名

5. 副賞

若手女性研究者部門	最優秀賞：表彰状・盾・研究費30万円
	優秀賞：表彰状・盾・研究費15万円
女子大学院生部門	最優秀賞：表彰状・盾・研究費20万円
	優秀賞：表彰状・盾・研究費10万円

2023度 九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞
(伊藤早苗賞) 最優秀賞・優秀賞受賞者

<若手女性研究者部門>

【最優秀賞】

○薬学研究院・助教・藤川 理沙子 (生命科学系)

研究テーマ：行動解析と組織学を用いて精神疾患の病態を理解する

【優秀賞】

○留学生センター・准教授・木下 博子 (人文・社会科学系)

研究テーマ：現代イスラーム世界の政治と宗教のダイナミズム

～ AI 技術活用と文理融合による先駆的な研究手法を通じて

○総合理工学研究院・助教・王 青 (理工学系)

研究テーマ：第一原理計算と高圧処理による太陽電池、光触媒、熱電材料の
新規エネルギー材料の開発

<女子大学院生部門>

【最優秀賞】

○理学府・博士3年・宮崎 栞 (理工学系)

研究テーマ：発光性希土類錯体の電界発光素子応用に向けた発光機構解明

【優秀賞】

○法学府・修士2年・松瀬 萌々香 (人文・社会科学系)

研究テーマ：医療情報データベースの構築・連携に向けた法的課題

○医学系学府・博士4年・立石 千瑳 (生命科学系)

研究テーマ：RPL3L-containing ribosome は心機能に必要な翻訳伸長ダイナ
ミクスを調節する

九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞（伊藤早苗賞）表彰要項

制 定：平成30年3月26日

最終改正：令和5年4月1日

（目的）

第1 この要項は、九州大学（以下「本学」という。）における優れた研究成果を挙げた若手女性研究者（教授を除く。）及び女子大学院生を表彰することにより、その研究意欲を高め、もって将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成とこれによる本学のダイバーシティ促進等に資するため、九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞を創設するとともに、その表彰に関し必要な事項を定めることを目的とする。

令和元年、本賞の創設に尽力された伊藤早苗元理事より本賞表彰を用途とする寄附があったことから、同年度は本賞の呼称を「九州大学女性優秀研究者賞(伊藤早苗賞)」とした。

その後、同年、逝去された伊藤早苗元理事の遺志を受け継ぎ、配偶者である伊藤公孝氏より寄附があり「九州大学伊藤早苗記念基金」が創設され、本賞は同基金により運営されることとなり、第3回目となる令和2年度より、賞の名称を「九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞（伊藤早苗賞）」に変更した。

（対象）

第2 表彰を受ける対象者は、以下のいずれかに該当し、関係教員等より推薦を受けた者とする。

(1)若手女性研究者部門

本学に在籍する女性研究者（教授を除く。）のうち、推薦の前年度末において、次の各号のいずれにも該当する者とする。

イ 本学に1年以上在籍していること。

ロ 年齢が40歳以下であること。

ハ 過去3年以内に優れた研究業績を挙げていること。

(2)女子大学院生部門

本学の大学院に在籍する女子学生のうち、推薦の前年度末において、過去3年以内に優れた研究業績を挙げた者とする。

- 2 前項において、過去3年以内に、出産、育児及び介護のための休業又は休学の期間がある場合、優れた研究業績の対象期間については、以下のとおりとする。

出産、育児及び介護のための休業又は休学期間	優れた研究業績の対象期間
1年未満	過去3年に1年を加えた期間
1年以上	過去3年に当該休業等期間を加えた期間

- 3 表彰の対象となる研究分野は、限定しないものとする。
- 4 過去に本賞を授与された者は、表彰を受けることができない。ただし、過去に女子大学院生部門で本賞を授与された者については、若手女性研究者部門において表彰を受けることができる。

(推薦)

- 第3 推薦に当たっては、別に定める様式による調書及び推薦書、その他必要な書類を提出する。なお、若手女性研究者部門に該当する者のうち、准教授、講師又は助教の場合は、自薦によることができる。

(公募)

- 第4 ダイバーシティ担当理事は、表彰を行おうとするときは、候補者の推薦について公募するものとする。なお、公募に関し必要な事項は、ダイバーシティ担当理事が定める。

(伊藤早苗賞候補者選考委員会)

- 第5 本学に、伊藤早苗賞候補者選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。
- 2 委員会は、第4による公募により推薦のあった者について、候補者の選考を行う。
- 3 委員会は、次に掲げる委員で組織する。
- (1) 学内外の学識経験者のうちから総長が指名する者
 - (2) 男女共同参画推進室員のうちから総長が指名する者
- 4 3(1)の委員は、人文・社会科学、理工学及び生命科学の各分野の学識経験者とし、その人数はそれぞれ同数程度とする。
- 5 3の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 委員会に委員長を置き、3の委員のうちから総長が指名する。
- 7 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

- 8 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。
- 9 委員が推薦者である場合は、該当する被推薦者の審査には加わることができない。

(議事)

- 第6 委員会は、委員の2分の1以上が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。
- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

- 第7 委員会が必要であると認めた場合は、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(選考)

- 第8 若手女性研究者部門及び女子大学院生部門から、毎年度それぞれ最優秀賞1名、優秀賞若干名を選考する。ただし、該当者がいないと委員会が判断した場合は、この限りではない。

(表彰の決定)

- 第9 表彰の決定は、委員会の議を経て、総長が行う。

(授与)

- 第10 表彰は、総長が表彰状を授与することにより行う。
- 2 前項の表彰状に併せて、副賞を授与することができる。

(事務)

- 第11 表彰に関する事務は、人事部人事企画課において処理する。

(補則)

- 第12 この要項に定めるもののほか、表彰に関し必要な事項は、ダイバーシティ担当理事が別に定める。

(実施)

第13 この要項は、平成30年3月26日から実施する。

附 記

この要項は、令和2年4月1日から実施する。

附 記

この要項は、令和3年4月1日から実施する。

附 記

この要項は、令和4年4月1日から実施する。

附 記

この要項は、令和5年4月1日から実施する。

九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞（伊藤早苗賞）
2023年度 推薦要項

1. 目的

九州大学（以下「本学」という。）は、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究・教育拠点となることを基本理念とし、国際的視点を含めたダイバーシティを尊重する教育・研究を推進しています。国際的にも女性の活躍が注目される中、本制度は、学術上優れた研究成果を挙げた本学若手女性研究者（教授を除く。）ならびに女子大学院生を表彰することにより、当該女性研究者自身およびこれに続く多くの若手女性研究者の励みとし、その研究意欲を一層高め、もって学術研究の将来を担う優秀な女性研究者の育成に資することを目的として「九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞」を創設しました。

なお、2019年に創設された伊藤早苗記念基金により本賞が運営されることになったため、同年度から賞の名称は「九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞（伊藤早苗賞）」となりました。

2. 推薦対象者

本学に所属する若手女性研究者、女子大学院生のうち、前年度末において、過去3年間で行った研究において、学術上優れた研究成果を挙げたと認められる者で、以下の条件を満たす者について推薦できます。研究分野は限定しません。

過去に本賞を授与された者は、表彰を受けることができません。ただし、過去に女子大学院生部門で本賞を授与された者については、若手女性研究者部門に推薦することができます。

【若手女性研究者部門】

本学に在籍する女性研究者のうち、推薦の前年度末において、次の各号のいずれにも該当する者。

- イ 本学に1年以上在籍していること。
- ロ 年齢が40歳以下であること。
- ハ 過去3年以内に優れた研究業績を挙げていること。

【女子大学院生部門】

本学の大学院に在籍する女子学生のうち、推薦の前年度末において、過去3年以内に優れた研究業績を挙げた者。

若手女性研究者部門、女子大学院生部門いずれの場合においても、過去3年以内に出産、育児及び介護のための休業又は休学の期間がある場合は、「優れた研究業績」の対象となる期間について、以下のとおりとします。

出産、育児及び介護のための休業又は休学期間	優れた研究業績の対象期間
1年未満	3年に1年を加えた期間
1年以上	3年に当該休業等期間を加えた期間

3. 選考方法

提出された推薦書類にもとづき、本学に設置された選考委員会（学外委員を含む）による審査の上、総長が受賞者を決定します。

選考委員会は、若手女性研究者部門及び女子大学院生部門のそれぞれについて、書面審査にて、人文・社会科学系、理工系、生命科学系の3分野で1名ずつの候補者を選び、選考委員会において3分野の候補者がプレゼンテーションを行い、委員の投票により、最優秀賞1名、優秀賞2名以下の候補者を選考します。ただし、該当者がいないと判断される場合はこの限りではありません。

4. 審査の観点

選考は、以下の項目等について総合的に評価します。

- (1) 研究の独創性・学術的意義
- (2) 研究成果の波及効果、社会に対する貢献度
- (3) 研究全般に対する候補者の貢献度
- (4) 候補者の将来性

5. 表彰

最優秀賞、優秀賞ともに、表彰状トロフィー及び以下の副賞（研究費）を授与します。

若手女性研究者部門	最優秀賞	30万円	優秀賞	15万円
女子大学院生部門	最優秀賞	20万円	優秀賞	10万円

6. 推薦方法

推薦は、推薦者を通じて行います。

推薦者は、以下に定める所定の用紙（様式1及び2）に必要事項を記載し、論文別刷等とあわせて提出してください。推薦者は被推薦者の研究内容を良く理解する本学教員とします。但し、准教授、講師又は助教の場合は自薦による応募ができることとします。

- ・調書【様式1】
- ・推薦書【様式2】※自薦の場合は提出不要
- ・推薦対象となった論文又は書籍の別刷（学生は3編以内、研究者は5編以内）

7. 書類提出方法

提出書類は推薦者が次の要領で、下記12.宛てメール添付にて提出してください。

- ・原則として、書類は全てPDFファイルで提出してください。
- ・書籍の別刷りの場合は、表紙、目次及び該当部分を抜粋したPDFファイルを提出してください。
- ・ファイルが大容量となる場合、本学ファイル共有システム等を利用してください。

8. 推薦受付期間

2023年4月7日（金）～2023年6月20日（火）

9. 選考結果の通知

審査の結果について2023年8月下旬頃通知いたします。

10. 表彰式

2023年9月以降を予定しています。表彰式後に受賞対象となった研究成果の発表の機会を設けることがあります。日程等詳細については、別途受賞者に通知します。

11. その他

- (1) 選考結果に対する問い合わせには応じかねます。
- (2) 受賞者の氏名、所属及び受賞の対象となった研究業績等は公表されます。
- (3) 提出書類に含まれる個人情報、厳重に管理し、本表彰の事業遂行のためにのみ利用します。
- (4) 提出された書類等は、原則として返却しません。

12. 問い合わせ先及び書類提出先

お問合せ：九州大学人事企画課職員係

TEL：092-802-2262〔伊都地区内線 2262〕

E-mail：syjdanjyo@jimu.kyushu-u.ac.jp

書類提出先：九州大学男女共同参画推進室 表彰担当

TEL：092-802-2034〔伊都地区内線 2034〕

E-mail：prize@danjyo.kyushu-u.ac.jp

本賞は、九州大学基金における用途特定プロジェクトとして2016年12月20日に設置が決定されました「女性研究者活躍促進プロジェクト」の寄附金により2018年度から運営が開始されました。2020年度からは2019年に創設された「九州大学伊藤早苗記念基金」により運営することとなりました。

以上